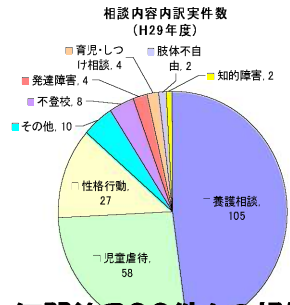
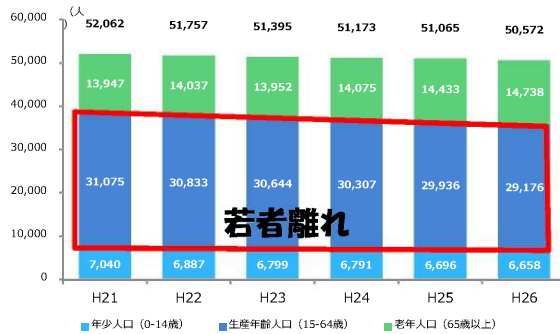


助け合い～菊池～ 田舎(inaka)に愛(i)が入って良い仲(iinaka)に

菊池市の地域コミュニティの強化検討グループ 菊池L♡VERS

中武 郁子・岩本 敏・岩本 祐一郎・西嶋 廣

菊池市も少子高齢化を辿っており、人口減少(若者離れ)も拍車がかかっている。さらに、子育て世帯の相談件数も年々増えており、今後は、地域住民同士の繋がり(地域力)を強くして助け合いのまちづくりを目指す必要がある。



年間約200件もの相談件数が…年々増加



地域コミュニティの衰退に歯止めがきかない！世帯の孤立化と緊急時の連携が困難になる

若者は定住してくれない。ターゲットを高齢者に絞って考えてみよう！

菊池なら…

- ・市街地と山間地域が混在する「ちょうどいい田舎」でセカンドライフを！
- ・趣味やスポーツでいい汗をかいて、疲れを温泉で癒せる環境がある！
- ・市の医療費削減にもつながって、住みよいまちに！

提言内容①

高齢者でも移住したくなる環境づくり

生涯学習センターや地域の公民館で、高齢者の知識や技能を生かした布絵本講座や竹うま・竹とんぼづくりなどの「自主講座」を開講する。高齢者が活躍できる場所をつくることで、「生きがい」を感じられるようになる。



生涯学習センター



講師として活躍



提言内容②

子育て応援プロジェクトの実施

子育ての負担が大きくなり、虐待等の相談件数が増えている中、保育園等を活用して高齢者と孫世代の子どもとの関わりを築く場を増やし、かると大会や茶道教室などを園児と一緒に行うことで「生きがい」づくりにもなる。それによって保護者も子育ての負担の軽減を図れるほか、高齢者本人の認知症予防などにもつながる。



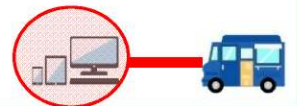
菊池市内保育園の一例

提言内容③

KIT政策の実施

※KITとは、Kikuchi Information Technology
移動販売業者と利便性の低い地域の住民とをIT機器を使ってつなげることで、住民も必要なものをすぐに伝えることができる。また、そのようなIT機器をいきいき100歳体操が実施されている地域の拠点に整備することで、みんなでネットショッピングを楽しんだりできる。買い物目的に参加者も増加し、元気づくりと地域住民のコミュニティ形成がうまくマッチングし、高齢者の「生きがい」づくりにつながる。

ITの活用



効果

近隣住民同士のつながりが生まれることで災害に強いまちづくりができます。さらに、地域コミュニティを高めることができれば、若者の流出を減らすことができ、高齢になっても「生きがい」を見いだし、安心して生活できる癒しの場所が維持されていきます。地域コミュニティの強化だけでなく、高齢者の孤独死の問題や家庭の子育ての負担軽減も図ることができます。

